

報道関係者各位

2023.8
福田美術館
嵯峨嵐山文華館

ゼロからわかる江戸絵画

あ!若冲 お!北斎 わぁ!芦雪

Edo Paintings A to Z – Jakuchu, Hokusai, Rosetsu and more
2023.10.18 [水] – 2024.1.8 [月・祝]



美術ファンも初心者も楽しめる！江戸絵画の名品118点が勢揃い

福田美術館、嵯峨嵐山文華館が合同で開催する本展では、歌川広重の浮世絵、伊藤若冲の鶏、円山応挙や長沢芦雪の仔犬など誰もが一度は目にしたことがある江戸絵画の優品計118点（福田美術館／80点・嵯峨嵐山文華館／38点）を、江戸絵画の基礎知識や鑑賞ポイントと共に紹介します。日本画に精通している方はもちろん、江戸絵画に触れたことのない方でも楽しんでいただける展覧会となります。

会期：2023年10月18日（水）～2024年1月8日（月・祝）

前期：10月18日（水）～12月4日（月）／後期：12月6日（水）～2024年1月8日（月・祝）

- 【主催】福田美術館、嵯峨嵐山文華館
【後援】京都府、京都市、京都市教育委員会、京都商工会議所
【会場】第1会場：福田美術館、第2会場：嵯峨嵐山文華館

「ゼロからわかる江戸絵画 ーあ！若冲、お！北斎、わぁ！芦雪ー」開催発表会見

10月18日の開幕を前に、本展の企画背景、出展作品と見どころを解説する開催発表会見の開催を予定しております。また、本展にて数十年ぶりに公開される江戸絵画の名作かつ「幻の作品」をお披露目し、学芸員の岡田秀之が作品解説を行います。詳細が決定しましたら改めてご案内いたします。

【開催予定日：2023年8月29日（火）14時～ 会場：福田美術館 2Fギャラリー】

第1会場：福田美術館

応挙、若冲、芦雪…江戸時代の京都画壇の魅力



円山応挙 《黄蜀葵鶩鳥小禽図》



伊藤若冲 《燕に双鶏図》



長沢芦雪 《親子犬図》

ギャラリー1では、17世紀から18世紀にかけて京都で活躍した画家たちの作品を展示いたします。地元京都において、現在に続く日本画の礎を築いた円山応挙、近年爆発的な人気を得た伊藤若冲、ユーモラスな作風で近年じわじわと知名度を上げている長沢芦雪…より幅広い層の人々を対象としてフリースタイルで絵画を描いた彼らの魅力をお楽しみください。

狩野派って？ 琳派って？



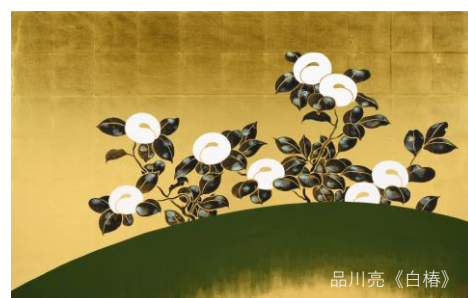
中村芳中 《花鳥人物扇面貼交屏風》



俵屋宗達

《伊勢物語図 第二弾「西の京」》

江戸時代、室町時代から続く「狩野派」と呼ばれる集団が、幕府御用達の画家として主流となっていました。彼らは江戸城や京都・二条城をはじめ大型建築の障壁画を手がけました。伊藤若冲や円山応挙も、絵を習い始めたばかりの頃は狩野派に師事しています。しかし京都と江戸において、どこかに弟子入りすることなく、尊敬する画家の作品を手本に学び、その表現方法を継承しようとする作家たちが現れます。それが「琳派」と呼ばれる画家で、俵屋宗達に学んだ尾形光琳・光琳に学んだ中村芳中などが知られています。2階のギャラリー2には、狩野派や琳派による美しい屏風絵などが並びます。また、パノラマギャラリーでは、日本絵画の流れを意識しつつ、現代絵画の可能性に挑戦する現代作家、品川亮による個展「Re:Action」を開催いたします。



品川亮 《白椿》

第2会場：嵯峨嵐山文華館

福田コレクションの名品・北斎の肉筆画



庶民の生活や流行、役者などを題材にした「浮世絵」は版画技術の発達によって、現在の雑誌や広告物のような新たなメディアとして大都市の江戸で人気を博しました。第2会場の嵯峨嵐山文華館は、自らを“画狂”と称した葛飾北斎による《大天狗》や《墨堤三美人図》をはじめとする貴重な肉筆浮世絵の世界をご紹介します。



「五十三次」って何？



徳川家康は江戸と京の間に53の宿駅を設置し、公用の通信や荷物は次の宿まで無料で送り届けるという伝馬制度を整備しました。それが東海道「五十三次」です。

2Fの畳ギャラリーでは、誰もが知っている歌川広重の版画55点を、前期後期に分けて一挙公開いたします。

展覧会概要

- 企画展名 「ゼロからわかる江戸絵画ーあ！若冲、お！北斎、わぁ！芦雪ー」
- 会 期 2023年10月18日（水）～2024年1月8日（月・祝）
 <前期>10月18日（水）～12月4日（月）
 <後期>12月6日（水）～2024年1月8日（月・祝）
- 開館時間 10:00～17:00（最終入館 16:30）
- 休 館 12月5日（火）展示替え、年末年始：12月30日（土）～1月1日（月）
- 主 催 福田美術館、嵯峨嵐山文華館
- アクセス
 - 第1会場／福田美術館
 〒616-8385 京都府京都市右京区嵯峨天龍寺芒ノ馬場町3-16
 JR山陰本線（嵯峨野線）「嵯峨嵐山駅」下車徒歩12分／阪急嵐山線「嵐山駅」下車徒歩11分
 ／嵐電（京福電鉄）「嵐山駅」下車徒歩4分
 - 第2会場／嵯峨嵐山文華館
 〒616-8385 京都市右京区嵯峨天龍寺芒ノ馬場町11
 JR山陰本線（嵯峨野線）「嵯峨嵐山駅」下車徒歩14分／阪急嵐山線「嵐山駅」下車徒歩13分
 ／嵐電（京福電鉄）「嵐山駅」下車徒歩5分
- 料 金

	一般	高校生	小・中学生	その他
福田美術館	1,500 (1,400) 円	900 (800) 円	500 (400) 円	* 障がい者と介添人1名まで各900 (800) 円 * 幼児無料 * () 内は20名以上の団体料金
嵯峨嵐山文華館	1,000 (900) 円	600(500)円	400(350)円	* 障がい者と介添人1名まで各600(500)円 * 幼児無料 * () 内は20名以上の団体料金
二館共通券	2,300円	1,300円	750円	* 障がい者と介添人1名まで各1,300円

プレスリリース／広報用画像に関するお問合せ

福田美術館／嵯峨嵐山文華館広報事務局（共同ピーアール内）
 担当：田中、樋口、神（じん）
 TEL：03-6264-2045
 Email：fukudamuseum-pr@kyodo-pr.co.jp

一般の方からのお問合せ

TEL：075-863-0606（代表）Email：info@fukuda-art-museum.jp

プレス用画像（福田美術館展示①）

※広報画像は以下の申請フォームよりダウンロードいただけます。

<https://tayori.com/f/edokaiga/>

※トリミング可。その場合キャプションに（部分）と表記



①円山応挙 《竹に狗子図》（前期展示）



②伊藤若冲 《燕に双鶏図》（前期展示）



③長沢芦雪《親子犬図》
（前期展示）



④谷口香嶠・猪飼嚙谷《光琳式扇面散志図》（前期展示）



⑤伊藤若冲《柳に雄鶏図》
（後期展示）

プレス用画像（福田美術館展示②）

※広報画像は以下の申請フォームよりダウンロードいただけます。

<https://tayori.com/f/edokaiga/>

※トリミング可。その場合キャプションに（部分）と表記



⑥伊藤若冲《霊亀図》
（後期展示）



⑦長沢芦雪《海老図》
（後期展示）



⑧長沢蘆雪《猫と仔犬》（後期展示）



⑩中村芳中《花鳥人物扇面貼交屏風》（後期展示）



⑨俵屋宗達
《伊勢物語図 第二弾「西の京」》
（後期展示）



⑪品川亮《白椿》（通期展示）

プレス用画像（嵯峨嵐山文華館展示①）

※広報画像は以下の申請フォームよりダウンロードいただけます。

<https://tayori.com/f/edokaiga/>

※トリミング可。その場合キャプションに（部分）と表記



⑫祇園井特《紫女図》
（通期展示）



⑬葛飾北斎《大天狗図》
（前期展示）



⑭葛飾北斎《端午の節句図》
（後期展示）



⑮宮川長春《括り枕と美人図》
（後期展示）



⑯葛飾北斎《墨提三美人図》
（後期展示）

プレス用画像（嵯峨嵐山文華館展示②）



⑰_1 歌川広重《東海道五十三次 朝之景（日本橋）》（前期展示）



⑰_2 歌川広重《東海道五十三次 左富士（吉原）》（通期展示）



⑰_3 歌川広重《東海道五十三次 夜之雪（蒲原）》（通期展示）



⑰_4 歌川広重《東海道五十三次 興津川（興津）》（通期示期）



⑰_5 歌川広重《東海道五十三次 旅人留女（御油）》（通期展示）



⑰_6 歌川広重《東海道五十三次 三重川（四日市）》（通期展示）



⑰_7 歌川広重《東海道五十三次 白雨（庄野）》（後期展示）



⑰_8 歌川広重《東海道五十三次 三条大橋（京師）》（後期展示）

福田美術館について

美しい自然と日本美術の融和。日本文化の新たな発信拠点として

京都・嵯峨嵐山は古来歌枕でもある場所で、多くの貴族や文化人に愛され芸術家たちが優れた作品を生み出す源泉となってきました。福田美術館は「100年続く美術館」をコンセプトに、現代まで受け継がれてきた日本文化を次世代に伝え、さらなる発展へとつなぐ美術館を目指します。

オーナーである福田吉孝は京都に生まれ育ち、そこで事業を興し、今日まで続けてきたことに対し、地元の方々のご支援とこの地に恩返しをしたいという思いから、2019年10月、美術館の設立に至りました。今や日本国内だけでなく、世界中から多くの人々が訪れる観光地である嵐山。その中でも渡月橋を望む大堰川（桂川）沿いの景勝地に位置し、四季折々でそれぞれに変化する風景は1000年変わらず人々を魅了してきました。この美しい自然とともに日本美術の名品を愉しんでいただくことで、嵐山が世界有数の文化発信地となることを願います。



嵐山にふさわしい、未来へむけた日本建築の形

福田美術館の建築を手掛けた安田幸一氏は、「蔵」をイメージした展示室や外の自然とのつながりを感じられる「縁側」のような廊下など、伝統的な京町家のエッセンスを踏まえつつ、これから100年のスタンダードとなるような新しい日本建築を目指しました。また、庭には大堰川に連なる水鏡のごとく嵐山を映し出す水盤が設けられており、渡月橋が最も美しく一望できるカフェからは最高の眺めを味わうことができます。

